

吉益南涯 医案

一婦人有り、両脚 痠痛し、臑より膝臑に至るまで、紫色の筋を見ず。其の婦曰く、臍下の悸、時有りて胸間に上突く。劇しければ則ち精神変乱す。其の時に方り、彼の紫色なる者、忽焉として去り、已むときは則ち倏焉として復た来る、と。先生乃ち黄土湯を服せしむ。之を得て血を下して、疾 全く解す。